WASON
HQ
1104
J74
Feb. 12 1887 no. 51

驛遞局認可

明治二十年二月十二日刊行

女學雜誌

每土曜日發兌
一冊正價五錢
附內無郵送稅

第五十壹號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 51. FEBRUARY 12TH, 1887.

第五拾壹號

EDITORIAL: Should Parents live with the Married sons and daughters?

LEADING ARTICLES: Voluntary Marriage, by Senator S. Nishimura: No. II; Mrs. Knox's Lecture on "The Christian Education of Woman."

MISCELLANIES: A New Mother: A Poem translated from the English of Miss Procter.

BIOGRAPHIES: T. Hosokawa's wife; Mrs. Eureka: No. 6.

CORRESPONDENCES.
GENERAL NEWS.
ADVERTISEMENTS.

●社說 親子別居の論

●論說 男女相擇の說(西村茂樹君)(二)○基督敎女子敎育論(ノックス夫人)

●叢話 優しき姫の物語附り長歌の譯

●佳傳 細川忠興の妻○ゆりか物語(六)

●寄書 檻熊を觀て感あり(大高坂竹子)○婦女の地位に付ての質疑に答ふ(上林敬二郎)○じやがたら文(完)

●新報 十五則 ●廣告

●珊瑚の玉 (第二十回)

○女は織縫の所作をなすは定まれる職分なりたとひ高貴の人の娘たりとも既に嫁入りして夫に仕ふるときは夫の衣裳は自ら織縫すべきとなり況んや其の下たる者をや(內訓)

○諺に曰く兄弟は一塊の肉婦人は是れ刀錐とは其剜割に任んずるを言ふ兄弟は一釜の羹婦人は是れ攙梅とは其の調和に任ずるを云ふ大抵婦人は利を輕んじて言寡なく思多くして怨み少なければ人家の災害をなさゞるに幾し(閨範)

○いにしへ女子の嫁入する時其の母中門まで送りていましめて曰く汝が家に行きて必ず謹しみ必らず誡しめて夫の心に背く事勿れと云へり是れ古の女子の嫁するとき親の敎ゆる禮法なり女子の父母よく此理を言ひきかせいましむべし女子も又たよく此理を心得てまもり行く可し(童子訓)

○婦人は多く少壯に富貴を享て暮年に無聊なるもの也(世範)

○ナポレオン、ボナパート、曰く我れは國を責め我妻は我心を陷いる

○エジソン曰く女子の德貞操に過ぎたるはなし夫の財貞操の妻を得たるより尊きはなしけだし貞操は常に眞實、誠正、堅固等の德を含むものなり

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第五拾壹號

明治二十年二月十二日

●社説

○親子別居の論

吾人は前々號に於て當今の女生徒諸君が一家の妻となり數多の不平不滿足をその家內に惹起し玉ふ趣を示し其由緣の一は必ずや女學校教育の制未だ宜きを得ざるに歸せざるを得ずと論じたり而して此宜しからずと思はるゝ教育制の中に就てハかの寄宿舍の取扱を以て先づ尤も速に改良すべきものと思考し前號に於ては當今の女生徒寄宿舍の弊風を擧げ少か其改良案を建てたり。右二篇の主意とする所ハ必竟戸々に良妻賢母を得て夫之が爲に樂み子之が爲に幸ひなるの好族を得んとするにありと雖も亦それ家に姑舅あり兄弟あり他に親戚朋友多からんとき此等との折合甚だ宜しくして內外に和樂の幸あらんことを切望するが故に特に如此く強く女生徒諸君を責めてその任を重くしたると也由ては此際舅姑及當の夫に對して別に一言すべきものあり吾人既に女生徒諸君に對して責むべきを責め或は寧ろ酷なりと思はるゝ程に其任を重くしたれバ今は此等の人々に對して亦一條の注意を仰ぐは尤も適當の事なるべし。抑も家に舅姑あり兄弟姉妹ありて新夫婦此間に介まり而して一家よく親睦せバこれ蓋し最上の樂ならむ凡そ樂は衆と共に樂むを以て尤も樂しきものとするが故に實際不都合あらざらん限りは成べく多くの人々と共に睦み合はんとは無論何人も共に希望する所ならん況んや夫の父母は妻の父母なり夫の同胞は妻の兄弟に均し此等と共に和樂して一家にあらんと固より其望む所なるべしと雖も如此きは只だ女大學の理想にして實際甚だ得がたきの境遇なるを奈何せん

試に當今我國に行るゝ家族の組織を見るべし先づ一家の戸主に妻ありて之に子女數人あらん而して戸主の父母は妻の姑舅となりて嚴然玆に同居し夫の兄妹は又妻の小姑舅となりて其間に混住し甚しきは姑舅の姑舅亦奥座敷に隱居して戸主夫婦の長男近頃妻を嫁り當今玆に寄寓すると云ふ者あり故に一家に二夫婦の同居するを見るは事躰左程ゞ珍しからず甚しきは三夫婦四夫婦もありて唯だ其多からんを目出度御事となすなり。然るに若し數偶同居して家に琴瑟の音多しと云はゞ聖人も必ず喜バしう覺へ玉はんと雖も此數偶の間に厭慮、掛念、不平、不滿足、の念追々に起生して終には陰言、悪口、猜忌、厭

惡、爭鬪、等の結果を來し癪の病 彼 此に巡回して細君代〻床に伏し不平胸に欝して舅、夫、樂を外に求むるの有樣とあらバ人生第一の樂地たる家族は則ち現世の地獄とあるべし不幸之に過たるハあらざるべし而して今の現況を見ればかの聖人が喜び玉ふ程の和樂ハ多く此家族中に行はれず偶ま圓滑に親和するものあらば郷關之を誇稱して評判甚だ高しと云ふ其實際大抵推して測り知らるゝとあり

特に夫婦の愛情ハ哲學者だも尚ほ容易に分析すべからざるものあり情緒の糸入り亂れて雙方の心を纏ひ長生殿上人なきの折夜半念々たゞ相悟るの思切あるものあり然るに我國夫婦間の通弊として互ひの愛を現ハすを愧かしきとに思ひ妻の病氣に頓着せざる風を裝ひて男らしゝとあし想夫戀の琴の音は人に聞かするを好まざるの趣尤も笑ふべきものあり左れば姑舅兄弟と同居するの夫ハ特更に此男らしさを強くし妻も亦特更に夫に疎き風を裝ひ假りの處置は互の心を割きて遂には眞正の喜樂なく雙方不滿足に感じ合ひて妹脊の間一物を挾さむの心あるに至るものあり親子同居して一家に數偶あるを見れば大抵此弊あるを常とすと云ふ。且や親子同居の習慣より生じ來るの大弊は親子相ひ委賴して獨立の氣象を失ふの一事にあり凡そ人間此世にあらん限りは一日として社會の關係を絶つべきにあらず學者は死の床に座して尚ほ學事を研窮するとダーヰンの如く英雄は常に髮を塗るの老將馬に跨るの矍鑠翁の如く政治家は一足を棺中に入て尚ほ天下を憂ふビスマーック、グラッドストーンの如くあるべし五官の息氣全く止みて現世の境を辭するの日を以て則ち隱居と心得るハ文明男兒の覺悟ならん然るに我國の古老は封建時代の餘習を受て稍ともすれバ此世を二代に區分し年五十にして一半の世代を過せバ早く隱居して氣樂に他の半世を送らんと欲するものなり故に指を屈して悴の卒業を待ち卒業式執行の日は既に隱宅結構の計畫を終り月々若干を受けて無事に閑日月を消し香茶かんばしき邊に全日を費して一句を案するを以て非常の榮譽なりと心得るもの滔々として之れあり、又その子に就て之を云ふも殆んど相似たるの誤甚だ多し凡そ一個の男子たらんものは社會に立て何事をか大に爲す有るの覺悟あかる可らず之が爲には一身の幸福をも牲にし一家の和樂をも質にすべし妻あり子ありて家族團欒するの樂は固より何人にも愉快至極の事ありと雖も若し其志を成さんが爲に必要とあらバ終身獨居して閑窓に眞理を研窮するカントの如く艶麗の佳人を辭して戰

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

場に打て出る正行の如く少壯すでに大臣とあらんが爲に女子を近づけざるピットの如くあるべし是れ眞に十九世紀年代活溌少年の心膽ならむ然るに我國當今の少年中如此き覺悟あらざるもの甚だ尠からず學校の課業辛うじて終り拜命の差紙未だ下らざるの前すでに縁談に奔走すると博物學者の探索の如く唯々細君を發見せんとに注意し昨日は學窓に亂暴したるの書生今日は既に髯あり車あり妻あるの身分とある故に經濟亂雜にして雜用甚だ嵩み到底調理を兩親に委して其取扱を請はざる可らざる者あるあり然れども如此きは尚ほ今の子弟中の最も高等あるものあり甚しきは身未だ獨立の職業を得ず一身の生計未だ立たざるの折柄兩親孫を欲するの愚に奬められて早く妻を娶り夫婦ともに厄介とありて親の膝下に固息し二十歳の青年既に父とあり二八の婦人早く子を抱き而も終日碌々として起居するもの甚だ多きとあり。以上親子双方に存するの弊は主として親子同居の故よりして來るものあり若し親は養老金を貯へて死するの日よ至る迄自活の生計を用意し子は一身獨立せずんバ妻を娶らず父母に不幸あらざらん間は其の產を受けずとの覺悟ありて親子相別居し彼此全く經濟を分ち以て相ひ委賴するの習慣を破らバ此弊容易にして破り得べきあり

故に吾人は決して親子の同居を不可とするにあらず數偶一家に混倂するを宜からずと思ふにあらず若し如此して理想する程の和樂を得べしとならバ何人も勉て斯る幸福ある家族を造り親子祖孫團欒して衆と樂を共にするの愉快を取り聖人を茲に喜ばせ女大學を茲に實用するの運を希ふものと雖も當今の實際には決して如此き幸福を得べき望あらず望む可らざるを望みて意外の不和を釀し尚且つ莫大ある弊害を生ずるとあらバ寧ろ親子別居し夫婦二人一家を保ち以て彼此相通じて好をつなぐに如かざる也。歐米は文明の地にして人々よく平和し特に親子の愛は甚だ強きを常とすれども其子妻を娶らバ大抵別居して親子一家に同居するの事あし况んや我國當今の如く文明新に輸入して風習ノ年々に改革する時に際してハ古風の親と當今の新夫婦と居を共にせバ雙方に滑らかあらざるの感覺ありて一家の極めて樂しからざる者あらんは素と當然の決果なり。此を以て吾人は今の女生徒諸君に對してハ君等人の妻とありてハ能く其姑舅親戚に相應するやう行ひ玉ハざる可らずと云ひ、今の女學校に對してハ女生徒を優雅に養成して之に一家を滑かに修め得るの資格を得さすべしと云ひ、此の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

二件に對しては尤も熱心に希望し論辨する所ありと雖も今の父母と今の夫たらんものとに對しては亦切に上述する所の注意を仰がざるを得ざるもの也

My Noble father, I do perceive here a divided Duty: I am hitherto your daughter: but here's my husband.　*Desdemona.*

●叢話

○優しき姫の物語

むかし或國にやんごとなき姫座しけり心優にしてなさけの深ければ最と愍れなる娘を偶としたるより手元に引寄せて朝夕何くれとなう介抱し玉ひぬ二人はその年をもて云はゞやう〱に姉妹としも見べき程の違ひなれど互みの愛は親子に似たり共與に慈しみいつくしまれて日を送りけり然るに彼此ともに花の盛りの齢となりて妹脊の縁遠近にたよりある比ろ淺殿と申す有爲の少年心安う其家に出入したるが彼の二人は共に惡からず思ひ見て親しう交りける斯て此殿かの姫をや特に愛で玉ひけん公けに縁の談らひを申出られたるに姫は心もゆるまでに其誠を喜びたれど密かに思ひ見れば彼の娘も亦た此殿を慕ふ風情なり妾が身にこの幸をとりて彼兒の心を傷ませんよりはよし此身を失望の淵に沈るともあれれに育ちたる彼兒に幸を讓るに如かじと心定め忍びがたきを忍びて運れなう謝絶しぬ斯て殿と彼兒との結縁はもと其覺悟する所と云へど心なからん身には其交を見るだに得たへず特更ようとんじて遙かの國に住居を轉じぬ左ればかの娘は殿に嫁してより姫の心のにはかに變りしを怨み又夫の誠の何となう物たらぬやうにおぼへて獨り歎くらん夜半もありけり然れば三人の子を擧げて産の病に伏し養生ついに叶はで消果つるとき心の底の恨を微かにほのめかして稚子等は末ながら此母を思へと言ば遺しぬ姆は幼きより此夫人に侍づきたれば三人の子を己が孫のやうに覺へて育てつゝ朝夕亡き母の物語してひたすらに遺言の通りあれかしと祈りぬ然るに淺殿かの姫にめぐり合ひて妻の逝去を告ぐるの折初めて姫の眞心を悟りて彌よ之を敬愛し復び縁の談らひありたるに姫はかの兒もすでに死したりそが子の三人まであリと聞ては尚更に心動き此度は遂に之を諾ひて妹脊の交初て成りぬ然れど姆は其由を知らざれば反つて之を恨みとし稚子等はいよ〱亡き母を慕ひて姫に懷かず殿は心うきことに思ひて有の儘を語らんと云へど妾もし眞の愛な

らバ何如でなつき玉ハざらん必竟は誠の足らぬゆへぞと申して姫は之を止め唯だ〱忍びて暮るゝの日を待ち玉へりと云ふ。此物語はミス、プロクターの詩集にあり優なる女の心得として最と面白きものなれバ試に之を譯して左に掲ぐるの前少か序書して其大意を示すと云ふ

A New Mother.　　Miss Procter.

歌の躰は姫が物語のさまに寫したるなり讀む人推し玉へ

(一)うせたまひたる、はゝぎみの、なよはきをん手、もちそへて、
それともわかぬ、わこたちを、ことほぎませし、臨終の、
御ことうけしは、わらはなり。

(二)その夜わこ等を、なだめつゝ、かたみの敎しえ、うしなはで、
むかしをしのぶ、こゝろなれ、をはりのなごり、わすれぞと、
母おもはせしは、わらはなり。

(三)わらははかの夜、はゝぎみの、こゝろのうちを、くみわけて、
うせ行く御かほ、にもふしける、よしふたゝびの、母來ませ、
稚子はかみかけ、きみの子ぞ。

(四)をさなく居ます、むかしより、わらははたへて、かしづけバ、
幸にあらせし、日をも見き、こゝろのそこの、をんなげき、
とこそ見えぬ、身は知りぬ。

(五)六歳のさきは、「メー」君が、　母のわかれの、　かのよさも、
たのしく見えし、をもかげの、　笑もありけん、　かのひとは、
かづのなやみに、をとろへぬ。

(六)され云へ稚子が、ちゝぎみの、なさけなしとは、おもひぞよ、
たゞいと重き、御こゝろの、たのしき笑を、うけいれて、
愛敬よする、みちもなし。

(七)ほまれほこりも、やさしさも、花はづかしき、彼のきみは、
見んひと〱を、まよはする、姫の王にて、をはするを、
さびしき身とは、なりたまふ。

(八)こゝろのうちは、わらはにも、つまにもつげで、たゞひとり、
なげくうれひの、しのびねぞ、をはりのとこの、ひとことば、
「わが子はわれの、子なれかし」

(九)なきがらつゝむ、きぬとりて、わらははちゝに、觀せてける、
ちゝはむかしの、忍ひバれて、ひくきこはねに、のべたまふ、
「かみしろしめす、わがまことと」

(一〇)いもせの愛に、なげかるゝ、ちゝの御そばに、ともなへば、
わこらはをろゝ、眼のなみだ、ちゝはかれこれ、なぐさめて、
めではぐゝめと、仰うされぬ。

(一一)重きすがたの、淺のきみ、あいらしげにて、はぢらひつ、
かみたゞよはす、メーのきみ、逝きつるひとの、かたみとて、
わらはが愛は、いとふかし。

(一二)三人のうちの、をさなきは、母のいのちを、あだにして、
うまれ來ませし、あはれさに、わがつまごとく、おもふとて、
チルガの名をバ、つけたまふ。

(一三)このちゝが、なきつまを、おもふとのみの、みことばも、
この名つけ日ぞ、かぎりなれ、日に〱かたき、御ありさま、
あそぶ稚子らの、恐づるまで。

(一四)ちゝは言はねど、はゝぎみの、御名はわらはが、をしへける、
よな〱見する、すがた繪に、母の靜けく、良き質かき、

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

をん生れつきを、知らせける。

(一五)手には白花を、笑まし氣に、丹朱のくちびる、ひらきそめ、
こがねのいろの、かみの毛は、晴れのおよかぜ、ふきたてゝ、
はぢらひたまふ、すがた見ゆ。

(一六)かくて一と年、すぎにけり、淺殿居ます、たびのそら、
かなしきふみを、もたらせて、いつはりならぬ、ことゝ知る、
いはひの日こそ、なみだなれ。

(一七)わらはゝはやう、忌みながら、來ますときこゆ、姫ぎみは、
逝たるひとゝ、むつまじう、若きころより、まじはりて、
末かはらじと、おもはれぬ。

(一八)やさしくわかき、かのひとは、この姫ぎみの、やゝ老けて、
重きこゝろを、たのみつゝ、マルガレットと、親しみて、
ほめもいさめも、うけたまふ。

(一九)かのひとたちゝに、おひそめて、このまじはりは、あだとなり、
わらはもろとも、この姫を、うとんじたまふ、御こゝろは、
よしありとしも、見へにける。

(二〇)よしやありなし、いまぞきく、かの姫來まし、なきひとの、
はかなきあとに、いりたまふ、むかし忍ばん、こゝろには、
やましきこゝろ、あらずやれ。

(二一)さてもその日の、かねなりぬ、雅子等にいはふ、きぬきせて、
ちゝの新妻、いはひめせ、ことほぎたべと、をしへつゝ、
ともなふ手々は、ふるへけり。

(二二)かほ覆ひたまふ、淺のきみ、伏して無言の、メーのきみ、
雅子等が恐づる、ありさまに、淺殿見ゆる、いかめしゝ、
姫のまなこは、うるみける。

(二三)汝が母親を、ことほげと、ちゝの仰せに、わらはすら、
すゝめまいらす、メー君は、最とほこり顔の、やうすして、
[わが母すでに、さりたまふ]。

(二四)姫はなみだに、むせりつゝ、稚子等にくちつけ、ゆきたまふ、
わすられぬ身の、笑みもせで、こゝろの憂さの、ひとかげは、
いはひの日をや、くらめけん。

(未完)

○批評

(15). 袈裟御前貞操譚（第十五回）　中本一冊(百廿四頁) 定價貳拾錢　發兌所 東京銀座二丁目 共隆社

此書は故人絳山が文化十二年の昔に著したるを其儘に飜刻したるものなれば今更めて批評を要せざれども貞操云々など題したるに因りて讀み見たまへん女流もあらんと思へば只だ一言すべし。蓋し此書は絳山が袈裟盛遠の物語を種として面白う小說躰につゞりたゞ〳〵袈裟を無類の貞女に仕立てゝ少か女の心得とした者なり。然れど袈裟が夫と母とを兼ね思ひて遂に自ら代り死したるの一事甚だ貞に似たりと云へど既に一度び盛遠と床を一にしていよ〳〵彼が情慾を熾んにさせ遂に止みがたきに至りて彼の苦死を爲したるものとあれば素と當今の女教とすべき人物にあらずたゞ當時の風俗を推して少か之を恕し以て其志を憫れみ見るべきなり凡そ袈裟の事を聽くものは常に此心得あらんことを要す此書もと小說にして固よ

り實傳と合はざるものと雖も之を貞操譚として見ん人々の爲に只だ其注意を惹くのみ

●論説

○男女相擇ぶの説（二）

西村茂樹

是より數百年の間夫婦の結縁は或は父母の擇に出る者もあり或は男女自ら擇ぶ者もありて一定の法則あることなけれども大抵は自ら擇ぶを以て常とせる者の如し徳川政府の時に至り支那の儒道大に勢力を得國民の道徳之に依りて造成せる者多し當時諸侯の大なる者は儼然たる一國主にして既に國主たる者は之に相應せる禮儀制度なかるべからず是に由り冠婚葬祭等の如きも皆鄭重なる禮式を定め必ず之に遵はざるべからざることなれり其禮式の外貌は武家の舊式（足利氏以來の）に依る者多けれども其精神に至つては儒道に資る者甚だ多し諸侯たる者其身既に尊重なるを以て其子女も亦尊重の身分となり輕しく外出して他人と交際することを得ず其婚娶の事の如きも子女自ら相擇ばんと欲するも其途を得ず是に由り其婚姻は必ず媒氏に依托することなりて其選擇は父母多く之を掌ることゝなれり（父母之を選擇すると雖も其實は家臣の議決に出る者多し）然れども其子女が自ら擇ぶことを禁じたるに非ず唯儒道の教育に由りて子女は其父母に從順なることを專らとし殊に女子は幽閑貞靜を貴び又儒道に於て深く男女の際を愼むことを教へしを以て遂に己が配偶の選擇は之を媒氏と父母とに委かせ自身は之に關からざる如きの狀態を爲すに至れり然れども其子女の欲せざる所を强ゆると云ふが如きは聞かざる所なり是王政維新以前の日本上等社會の有樣にして（此上等社會は重もに諸侯に付て之を言ふ公家の如きは詳に之を知らされども亦是と大なる差異はあらざるべし）現今の華族諸君は猶之を實驗せる者ありしならん蓋し封建時代の諸侯は婚嫁の事に限らず多く抑制の中に生長せるを以て此の如き婚嫁法の如きも敢て自ら苦とせざりしなり

次に中等に位せる士族社會の有樣を言はんに大抵は其主人たる諸侯の風に摸倣し其婚娶の如きも大身の士族は殆んど諸侯と同樣の法を行ひ夫より以下の者は頗る自由を得といへども前に言へる儒道の教育と又武士道にて少年輩の婦女の事を談ずるを恥とするの風あるとを以て嫁娶の事は其父母に委托するを以て正實にして貞淑なる子女とせり然れども敢て其自擇を禁ずるに非ずして又父母は必ず其子の意を問て後に之を

決するを常とせり降りて農工商に至りても其大家豪族の如きハ其家法極めて整肅なるを以て其嫁娶の法ハ殆んど士族の大身と同じくして媒氏及び父母の選擇を以て常とすれども其中等以下に至りてハ大抵男女自ら擇ぶ者にして甚しきハ手を携へて共に奔る者も少なからず

以上論ずるが如く日本支那と西洋諸國とハ男女嫁娶の法ハ固より大に同しからすと雖とも亦今の論者の言ふか如き表裏顛倒の甚しき者にハ非ざるなり又論者の言ふが如く西國の夫婦ハ悉く幸福を得て和漢の夫婦ハ悉く不幸を受るか是尤も深く考究せざるべからざるの要件なり（未完）

○基督教主義女子教育の説

左ハ帝國大學の教授ノックス氏の母堂が曾て櫻井女學校に於て演説ありたるものなり夙くに其筆記を惠贈ありたれども紙面の都合により延引しぬ因て原と英文なるを今ま言語の躰に譯して本號以下に掲載す

一國の有樣は大抵其婦女子の有樣によつて知れるもので御座います、多くの國では女は教育を受ませんで只だ男のチモチヤか奴隸で御座います。

さて宣教師が始めてシリヤへ參りまして婦女子を教育しやうと申出しました時ニ、男共ハ大きに驚きまして、何とお言ひなさる、女を教育しやうと云へば猫を教育しやうと云ふも同じでありませう、と言ふたさうで御座います、此人たちは實に女と云ふものが智識を得る丈けのキリヤウが無いものと思つて居たので御座います。

所が其國の女學校に這入つた者の中に今まラヤハラツカツトと云ふて人に知られた女子が御座いました、此婦人は幼少の時分に自分よりも遙か年の多いもので大層嫌つた人に嫁しづけと家族の者に強ひられて此の宣教師の學校へ逃げて參つたので御座いました。茲に數年の間學文を修めまして其性質の極めて怜悧なとが段々に現ハれて參りました。卒業いたしまして評判も至極よろしく御座いましたが遂ニ教員に雇はれまして生徒を引廻すとを勉めて居りました

此婦人は貧しく引きも無い人でありましたが此の人を知るものとして之を敬まひ信用せぬものは御座いませんかつた。之は全く此婦人がすべての事に信實で忍耐づよく隨つて修業も結構に成就したからで御座いました。曾てイヂプトから一人の婦人の教員を需めに參りました時に、此人が尤も適當な人だと致されまして召に應じて參りました。

同じ校に教へて居りました人で教育も信仰も十分であつた人が遂に此婦人を娶りました。イヂプトで基督信徒が殺害されましたのは其れから數年後のとて御座いましたが、其時この婦人は、その夫と子と共に亞米利加へ逃れて參りました。亞米利加で此夫人は數千の女に演說をして廻りまして、外國傳道の事に大に賛成者を起しました、此夫人などが實に婦人を高尙にする基督教主義の教育の力を證據する眞に好きものと申しても宜しう御座います。而してシリヤでも外の國にても斯樣な修業をいたして居るものは此夫人ひとりでは御座いません外に多く御座います。箇樣に申す國では男子は教育もあり産業も授けられて居つたので御座りますが、婦人と云へば兎角教へられず曲げて壓しつけられて居りました。

印度では女を一室に入れて容易に外へ出しませんが、此處へ基督教主義の教育が這入ましたのは一足の縫箔した上靴が案内をしたと申します。或る印度人が一日宣教師の妻が其夫の爲に上靴をこしらへて居るのを見まして自分の妻供にも徒然で難澁の時分にソウ云ふものを造らせたいと申しました。此宣教師は早速之を教へてやらうと申しまして遂に共に集つて縫物を仕て居りました間に基督教教理を說いて聞かせたので御座りました。箇樣に教をきいて居りました中に、此婦人どもが自分で聖書を讀みたいと申出すやうに成りまして、此樣に眞にサヽイなとから只今では印度の數千の婦人が其利益を得て居る基督教主義の教育が國に入込ました。そのうちに印度の政府も遂に婦人の教育の利益が大切なることを見とめるやうに成まして、只今では公の學校も建て居ります。

耶蘇基督の教によつて利益をうけて居るのは世の中一汎で御座りますが、女ほど餘計恩にあつたものは御座いません。其教が廣ろまつて居る國には、何れにも女子の教育が尊とまれ進められて居ります。夫耳ならず女が愛敬され其居るべき地位に高められて居ります。

神の女を御造りなされたのは、男の助又友となる爲で御座いまして其下婢とある爲ではありません。然るに社會に尊敬と眞の愛慕をうける適當な品格を與へますのは只だ基督教主義の教育のみで御座います。

婦人の斯の如き品格を得ますのは或は衣物のかざりや小々斗り外國の語に通じて居りますとに因るものには御座りませんで、眞の廣き教育に因るもので御座います。

然し乍ら、婦人が教育を求めますには啻に適當ある品格を得

ること男の眞の尊敬を求めると斗りを目的にいたしてはなりません。凡そ人の心はその本質の中尤も貴重なる所で御座りますれバ之を鍛錬するに極めて注意しなければなりません。たとへば五體のうち一つに病があるとか損じた所があるとか弱いところがあるとか申しますれバ健全なる他の部分よりもモット注意を加へなければなりません。箇樣に人の本質のうちで餘り大切でない方にも心を用ひますれバ况して貴重なる心を健全にし成長さずる爲には何如なる心盡しも致しますまい乎。さて教育は人の心を發達させ成長さするもので即ちその狭きを廣ろめ其力を鋭くするので御座います。教育は人の研究して置いたものを知ると聖賢の遺して置かれたものを知らする爲に利益あるもので御座ります。　（未完）

If we were to form an image of dignity in a man, we should give him Wisdom and Valour, as being essential to the Character of Manhood. In the like manner, if you describe a right woman in a laudable sense, she should have gentle softness, tender fear, and all those parts of life which distinguish her from the other sex, with some subordination to it, but such an inferiority that makes her still more lovely.

Sir Richard Steele.

●佳傳

○細川忠興の妻

細川忠興の北の方は明智光秀が女なり父謀反の時忠興に向かひ申されけるは父ながらかゝるくはだて事よくなるべしともおもはれず瀧川柴田なんど申す人ゞ多ければ必ず軍敗れ候べし女の淺き智恵にも口をしくこそ存じ候へ男の身ならんには鎧の袖にすがりても諫め申べきを力なし君もし與せさせ賜ひなば世の譏りいかでのがれさせ賜はんと涙にむづまれしかば忠興光秀に同心なかりけり其の後ち程經て秀吉伏見に在りて諸大名の北の方を呼び入れて饗なされし事の有しに忠興の北の方が聞き女の人なくて一間に入りて他人にまみゆる事やあるわれも召れんとあらばとて懷ろに匕首を用意せられけり此れより秀吉の惡行はやみてけり石田西國の諸將をかたらいて兵を起す時諸大名の北の方を大坂城中に取り入れんとするを北の方聞て傅に付られし河喜多石見、稻留伊賀、小笠原正齋を呼びて吾此所を出ん事思ひもよらず城中に取りこめられんは恥辱なりよく斷りを申候へ猶きゝ入れられずば是れを限りと思ひ定べしと語られしかば正齋殿東國に向はせ賜ひし時おもひかけざる事のあらんには正齋はからひて武將の恥なさらし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ぞと仰せ置かれ候ひき敵奪ひとらんとするならば其の時思召切せ賜へと申しけりかゝる處に城中に入れよと使を以ていはせしかば再三斷の旨を述けれども聞き入れず七月十七日の未の刻ばかりに大坂の軍兵五百餘り玉造口の屋敷をとりまきてとく城中に入り申されよさらずば亂れ入りて奪取んと呼ばゝりけり女房ばらあはてゝ泣悲しめども北の方はさわぐ色もなくかくあらんとは兼ておもひ設つる事ぞよと正齋介錯せよわれ生て世にまみえざりし人々に死しての後も見られんはよからじとて面に覆面打かけくゝり袴着て刀を拔き胸につきたてられしかば正齋眉尖刀にて介錯し其のまゝそこにて腹を切らんとせし處に正齋が小性はしり來たり殿の北の方と同じ處に自害あらば後の誹りの候べきと云ひければ正齋あまりいたわしさにわすれたるよとて障子の外に走り出で家に火を懸け石見と共に腹切て炎の中に死したりけり忠興の北の方かたみとやおもはれけん手ずさみのやうにかきすてゝ硯の中に入れられし歌に

先だつは同じ限りの命にもまさりて惜しき契とをしれ　常山紀談

○ゆりか物語　（七）

ミルと云へる學者は高尚の眞理に思を凝らして心自ら寒くつねじ／＼いかめしう世を送りたらんと覺ゆるに或る著書の序には其ものしたる書を細君に見せて喜べるゝを此上なき樂なりと記せり、ナポレオンは蓋世の英雄にして氣宇豁達なり平生戰闘に膽を煉りて謀客に暇なければ優雅の情かつてあらざるが如し然るに其傳によれば皇后ジョセフヒンとの親しみ淺からずして繁劇の際み尚ほ書状の往來一日だも絕へたるとなしとあり、宋の胡澹庵が秦檜を議するに當りては氣風雲を起し文鬼神を驚かせたれど其意ひそかに黎倩を慕ひ明の侯雪苑が當世を論ずるとき歐蘇に駕するの文を以て賈陸に軼ぐの策を立てたりと云へど隱に李姬を想ふときく蓋し玉の巵底ありて何れの人心にもみな愛情をとゞむるなるべし思ふに愛情は猶ほ人心の花の如し吾等年若うして此花未だ開かざるに當りては或ひ雪天の冱寒風流によろしとなし或は秋夜の月心さびしうして鐘聲のうたゝ耳に澄むを喜ぶと雖ども心室ひとたび溫まりて花直に蕾を破れば春色乍ちに彩どりて天地の景一變し浮世なほ心を盡くすべきの樂あるを覺ゆるものなりシエレーかつて吟ずらく

泉は河に入り。河水海に入る。風氣吹去て動搖止まず。
知らず到底相混和するを。世上何物か單離する。神理昭々

皆相合す。君と妾と何ぞ獨り別れん。」
山は天に接し。波は相ひ抱き。花々相和して好く飾る。
日輪光を下て土地を握り。月光明らかに映じて。海面の口
に接す。君と妾と吻を接へず恨如何。

と蓋し此愛ありて夫婦世に生じ家族玆に成り子孫則ち繁殖す眞に人生欠く可らざるの賚あり左れバ終身獨居して行ひ濟すと云ふものハ喩ふるに猶ほ果中の虫の如し或は獨り樂で甘汁を吸ふの喜やあらん然れども遂に玆に閉居して其儘に徒死するに過ざるのみ故に愛を以て相合ふの妹脊は之を蜜蜂の賢こきに比す甘蜜之が爲に集り巢家之が爲に成り子孫則ち殖へ以て人世に益するとなり

左れバ夫婦の愛は人生最大の樂にして亦社會に極切の用あるものときくに男女若し緣を合して倘ほ此覺へあらざらんには其苦みや何如なるべき不幸また之に過たるはあらざるべし倩てもゆりかは偶としたるとより泥舟に嫁しづきぬ是れ固よりその心中に愛慕の念ありての行にあらず只だ世をはかなむの餘り何となう計られて結びたる交とあれバ是と云ふ爭もなく日に〳〵親しうもてなすが中にもなまじひに西洋の書など讀だるが結句身のあだとなりて古今の佳話に望を失ふ折もありけりそも〳〵夜國の人太陽を知らざれバ夜を暗らしとも思はず寒地の民温暖を覺へざれバ冬を寒しとは感ぜず凡そ高尙の愛を知らざる身には妹脊の間の不滿足をもて左程の苦としも思はぬ假りにも得らるべしと云ふ愛情を想像し得たらんものは合性の不合に物だらぬ不滿足を覺ゆるの苦腦之にこえたるはあらざるべし」ゆりかは泥舟の妻となりて早や四年を過しぬ早く擧けたる男子の追々に愛らしうなりて少かに心の憂さを霽らせど其夫に對しての愛は古人の申したらん程の半にも至らず吾子が父を慕ふの愛らしきを見ては抑も稚子には何如にして斯る誠や出づる生れ得て箇程に父を思ふの心あらバ切ては妾にも亦其趣を得させよなど羨やみ見るぞ笑止なれ今日は秋の日和の晴れわたりて四方の景色の長閑なれバ三人は打連立ちて或る野面をそゞろありきするに紅葉落つる河水は錦のしとねを流して空飛ぶ鳥は時ならぬ春の樣をうつしける、ゆりかは稚子の手を引きて先きに歩む夫をながめて少しく立留まりたるが慕はし氣に倚かゝりて物語らふ幼風を見て

アヽ坊はどうしてアンナに樂しからうあのやうに父樣を慕ひましたら……あのやうに心を置かずに信用しましたら……

カーチヤン早く御出ヨー

吟光

●寄書

○艦熊を觀て感あり、長榮女塾卒業生　大高阪竹子

妾嘗て滊船に搭し北海より東京に歸らんとし既に洋の中央に至る忽ち甲版の上各室の内紛擾事あるが如きを聽く妾が室船の尾端にありて頗る事端を悉す能はず卒爾として出て之を見れは何ぞ計らん犢大の黒熊甲版の上を徘徊す之紛擾ある所以也妾も亦大に驚き遽に室内に入り檻戸を密閉し窃かに玻璃窓の間より之を覗ふ已にして衆論囂々或は銃を擬して之を擊たんとするものあり或ひは誘ひて之を海に擠さんとするものあり喧嘩雜閙熊も亦大に激怒したるもの丶如し其危き而して後知るべきなり蓋し投機者北海より東京に檻載せんとし此日誤つて檻戸を弛へ之れを外に放たるなり監者衆の彼を殺さんとするを見て其利を失はんとを恐れ周章狼狽左右に之を制止すと雖も自家も亦人を傷ざるを保する克はず已にして一人あり曰く彼性甘きを好む宜く餌して檻内に誘致すべしと棒砂糖一塊を取りて之を監者に與ふ彼喜んで之を受け之を與る爲して徐々に檻戸に誘導す熊の砂糖に逢ふや形状一變鼻を動かし涎を垂れ亦た他を省みず漸く檻戸に至り深く之と共に内部に投ずれば則ち彼も亦隨つて入り遂に其戸を閉ち始めて衆の保んずるを得たり妾之を見て窃かに感ずるところあり彼久しく檻内に束縛せられ一旦時機を得て其内を出つるを得ると雖ども忽ち嗜欲の籠絡に逢ひ自から甘んじて再び陥穽の内に入る噫今世の婦女子にして自立を熱望せしもの時機を得て多年の束縛を脱し幸に文運隆盛の世に生れ女權擴張の時に長し螢雪の業を積高等の學を卒るものにして何人に嫁するときは忽ち嗜欲の籠絡に逢ふて頗る小逸に保んじ其志操を折き朝に自由を唱へて夕へに束縛に甘んずるもの擧げて數ふべからず又此熊と同一轍ならん乎と云爾

○婦女の地位に付ての質疑に答ふ

在東京神田　上林敬次郎　稿

貴社雜誌第五十號を閲するに「婦女の地位に付ての疑を質す」と題して英佛等の法律に於て婦女を無能力者となし一般契約を結ぶの權利も無きものとしたる所以を質されたり蓋し石丸阿艶孃の投寄に係る生一讀大に驚嘆に堪へさるものあり今より僅々二十有餘年の昔を顧るに當時封建尙武の風盛にして社會の公事などは勿論一家の私事だにも猶啄を容るへきものに非ずとし永く深窓の下に幽錮せられ奴隷の境遇に一生を送り唯々昊天に向て其不幸を訴ふるの外なかりし婦女諸裙か今や

即ち公然社會に向て法律上の疑問を提出せらるゝに至りしとハ豈其勇壯活潑にして進歩の迅速なるに驚かさるを得んや生等鬚髯男子宜しく深く猛省すへきなり偖て石丸孃の質されたる點ハ法律上頗る困難なる問題なれハ生の如き淺識不才なる者焉くんそ能く疑を解くに足らんや然とも生亦講法社會に伍せんと欲するものなり豈退て怯を守るを得んや是れ敢て勇を皷し進て答辯の任に丁らんと欲する所以なり貴社若し文辭の拙劣を咎めす假すに餘白を以てせらるれハ何の幸か之に若かんや

夫婦權を同ふし男女地位を異にする者に非ずとハ萬世不易の通則にして非難を容さゝる原理なり然りと雖とも此通則原理も時としてハ必要に迫りて限界なき能はす所謂限界とハ何そや請ふ以下之を論せん

夫れ人ハ男女性を異にすといへとも其生を天に享くるに至てハ則ち一なり然らハ則ち其生を保つ所以に於ても男女豈に異同あらんや生を享け生を保つに於て同一なれハ則ち又從て生を安し生を樂ましむるに於て同一なるへきハ事理の然らしむる所敢て疑を容れざるなり故に若し男子にして生命を保護するの權を有せハ則ち婦女豈此權なからんや男子若し快樂を買ふの權あらハ則ち婦女亦此權を有すへきなり生未だ男子獨り保生の權を專有せるを聞かす又未だ婦女に快樂の權なき所以を知らす是即ち男女權を同ふし夫婦地位を均ふする所以なり斯の如く男女天賦の權を同ふし夫婦自然の地位を均ふすといへとも社交上の權利（玆に社交上の權利と稱するものハ社會交際上得有したる地位を云ふものにして天賦の權自然の地位に對するものなり）に至りてハ必らすしも每に男女の際差異なきを得す其差異たる或ハ社會當時の形勢に因て然るものあり或ハ社交の必要に因て生するものあり社會當時の形勢に因れる差異ハ人爲專檀の規則にして宜しく排除すへきものなり之れを例せハ野蠻の時代に於てハ婦女を以て器具禽獸と同一視したるか如き其著しきものとす是れ全く當時の人民ハ暴戻殺伐なりしに職由し敢て之を器具禽獸視するの必要あつて然るにあらさるなり是等の差異ハ獨り社交上の權利に止まらすして多くハ其天賦の權利自然の地位をも併せて滅却し去るに至れり故に社會當時の形勢に因れる差異ハ最も厭忌すへく最も排除せさるへからさるものとす今日汲々計畫する所の婦女改良も蓋しまた全く此差異を打破せんと欲するに過ぎざるなり

之に反して社交の必要に因れる差異ハ或ハ社會の秩序を維持し或ハ社會の風俗を保護する等の必要に依り止むを得ず設くる所の差異あり之を例せば妻ハ夫に從順なるの義務の如し若し夫れ夫妻は同權平等の者にして妻と雖とも夫に順がふを要せずとせんか社會の風俗如何に壞亂せさるを得んや秩序何を以て能く維持し得へきぞ是れ即ち社交上の必要あつて生ずる所以にして毫も同權平等の原理に瑕瑾を與ふるものにあらさるなり故に彼の同權平等の原理と雖とも社交上の必要に遇ふてハ一歩を讓らざるを得ず是れ生の稱して同權の限界平等の範圍となす所以なりし。然るに彼の女權伸張に熱心なる論者ハ時に或ハ此範圍を超脫し社交上の必要區域に在りて尚ほ同權平等を主張せんと欲するよりして遂にハ社會の秩序風俗を壞亂し社會を蠹毒するなるに至れり原理妄用の弊害豈亦恐るへきにあらずや

以上論述し來りたる所を要するに男女同權とハ天賦の權利の同一平等なるに止まりて社交上の權利に在りてハ必要の爲めに制限せられ每に必らずしも同一なるを得ずと言ふに在り是れ少しく本論題外に涉るの嫌なきを得ずと雖ども世間或ハ彼の女權伸張の熱心者と等しく場合に拘はらず同權平等の原理を適用せんと欲するものなきを得ず斯くてハ到底婦女を無能力と爲したる所以を會得するを得さらんを恐れ事永くも數百言を費やしたる所以なり讀者幸に之を諒せられよ

請ふ是より進んで本論題に入りて有夫の婦を無能力者となしたる所以を解かん（未完）

○じやがたら文　（前號のつゞき）

又すぎにし彌生三日の日家の內の女ばら達みな〳〵あそびに出られけるわが身もさろハはれ候へとも參申さづゝそれに付ても其もとの比事はおもひ出まゐらせ候そもし樣へかやうにわかれ申候事かねてよりなるいらせ候ハゝよるひるとなくはなれ申さず朋細むつび候ハん物をいつ迄もとおもふものから有のすさひにもてなしまゐらせ候事さら〳〵心にかゝりまゐらせ候ハするへき時しなけれハむば玉のよるハすがたにゆめに見えつゝと故との葉におもしはかりくたさるへく候扨〳〵申入たき事濱のまさこのかず〳〵み候へともあまり〳〵心見たれなとさきわかちかね候儘あらまし申まゐらせ候助右衛門樣九郎樣同しとに申まゐらせ候又ぞやこうぜん町れかた樣へ々まいらせたく候へ共出船いそき候まゝそへ筆申まゐらせ候おたつ樣へ申入候何そ候ふみこま〳〵とあそばし降されず候や心もとなく存まゐらせ候

かあらず〳〵此舟のかへさにハ御文くはしくあそばしくださるべく候ことに我身居申す時とおぼしめしきくを御見捨くだされまじく候かならず〳〵秋の頃ハこま〳〵との御文待入まゐらせ候何もいんしん申たく候へども珍しき物も御座なく候まゝその儀なく候心ざしばかりに帯一すぢおくりしんじまゐらせ候もはや日本の花などはみな〳〵わすれ候てあらましおぼへ候もの計りぬいまゐらせもし人のわらひ申候ハゝ絵そらごとゝおぼせ可被下候又〳〵平吉様へ申まゐらせ御無事のよしめでたくぞんじ候とに御うれしくおもひまゐらせ候しかれハ何とて毎年御文くだされず候やそれのみふしんに思ひまゐらせたとへそれかしかたへ文たまひ候いずとても御心がはりとハ存申さず候かたく〳〵此便りには御ふみこま〳〵まち入まゐらせかやうに申候もせめてハ御筆の跡ありともそんじながめまゐらせハんまゝこま〳〵とあそばしくださるべく候わらむかしこひしやかしこ

日本にて

おまつ殿へまゐる

じやがたら　はるゟ

O Woman! in ordinary cases so mere a mortal, how, in the great and rare events of life, dost thou swell into the angel!

Lytton.

●新報

○帝國大學英語會 に於て去廿八日英語の討論ありたる趣は前號の新報欄内に記したるが其節諸氏が論辨ありたる議論の大畧は概ね左の如くなりき

論題　歐米婦人が社交上に有する特權を移して全く之を日本婦人に與ふるの利害

積極の主論者植村俊平君は此問題を論ずるに二途あり一は總躰論にして女權の本質を議するもの一は之を我國に適應して論ずるものゝ區別ありと述べ置て偖て申さるゝは當今歐米にて筆により舌に假りて女權の伸張を論辨するもの甚だ多きを見れば彼地にも尙ほ十分なる自由の行れざるを知るべし此事若然らバ吾國の女子をしてかの歐米の姉妹の如くあらせんとは素と決して空漠たる理論にあらず特に當今人權を束縛する凡ての不公平は何地に於ても皆除去さるゝの時に際し婦女子をのみ男子の輕蔑壓制をうくべきものとするの理由は決てあるまじきなり。又もし實際の上に就て之を云ふも殆んど同様の事あり童子成長の折一足たゞ發達して一足常に元の如くんば遂に顛倒すべし今ま三十年前來我國の男子は其何の職業にあるものたるを問わず皆な西洋文

明の風に化して進歩したるもの也此等の人々が歐米の兄弟を雛形として發達すると若し相應の行ならんには婦人が其姉妹に倣ふに何如ぞ不可なるべき男子ひとり進歩して女子の進歩を顧みず甚しき怠慢にあらずや然るに尤も驚くべきは世に教育あると云ふ少年にして尚ほ其姉妹其妻を如此き地位に置て恬とし安んずるの一事あり蓋し此類の人は古來その仲間に於て蠶食したる領分内に婦女子の進入し來らんとを恐るゝものなり然れども試みに一考すべし左足の右足と均しく發達するは果して全躰の損たる乎。余は今ま婦女子の地位を高むるが爲に起る數多の利益を列擧せんか先づ憾むる所は時間の足らざるとあり而も此事決して容易の論にあらずと雖も大凡そ社會の强固ある其の因一家の强固なるに在り一家の强固あるは良好の妻母を得ずして遂に望むべからざるを知らば思ひ半にすぐべし且つや日本の進歩幸福は現代の人民に關せずして其任多く後代の人にあり而て後代の人の賢强はたゞ高尚なる母によりて得らるべきとを思はゞ亦大に悟る所あらん。但し婦女の地位を高くして爲に得べきの利益は男子甚だ大氣にして且よく改進したるの後に置て初て得らるべき事及び婦女の地位の卒然として進歩したるが爲に人世多少の心苦あるべき事等は固より明瞭なり然れども女權伸張と云へる有價の進歩を爲さんが爲には是等の難事固より些細の入費として見るべし况や所云る此の心苦あるものは其實正當の苦惱にあらず概ね男子の嫉妬と我慾とより發生し來るものなるをや

此故に余は斷言す歐米の婦女子は當今尚ほ十分に高く且つ强固なる地位に達したるものにあらず吾國の姉妹をして少くとも之と同樣なる地位に達らしむるは尤も適當なる事なりと信ずる也」と論辨あり

消極の主論者木内重四郎氏は先づ當今の日本に舊弊の未だ去らざるもの多き由を慨き我國の婦人は信義、温和、優雅、貞實等の諸德を兼ねて女としては申分あきに係らず男子は亂暴に之を取扱ひて不信切極まりなく三行半に妻を追ひて之を顧みざる如き處置多し故に之を改良して女の地位を更に高くせんと云へる一義は無論反對せざる所なりと雖も今日の議題たる抑も之を改良するの可否にあらずして何如に之を改良すべきかと云ふ即ち改良の方向について論ずるものなるが故に其事の甚だ大切なるを覺るなりとありてさて申さるゝ樣然るに西洋の婦女子は成程高等の地位を占めて

甚だ進歩したるが如しと雖も其弊として寧ろ過度に陥り實際却りて男子を壓するの風ありその一度交際社會に入りてより至る所男子の追從を甘受して間ま法外の處置もあり天然の女德之が爲に損するあるを見る故に余は此女風を日本に移し日本の婦女をして此風に倣ハしめんとするは大に不可なりと信ぜり蓋し西洋の婦人には尊むべく愛すべき美質もとより之ありと雖も之を遇する所の假虚の事情存せん限りは彼の否むべき數多の弊害遂に止む可らず而して西洋文明の方向は不幸にして其婦女子を如此き弊害あるの地に養成するが故に此の可憐なる温和の日本婦女子をして歐米の姉妹と同樣の地位に登らしむるは甚だ危難ありと考ふ。抑も男女は其身躰元來同樣ならざるもの也故に婦女子にして若し男子よりも能く針を弄して尚且つよく鋤を揮ふとならバ其身一躰にして農業と裁縫とを兼ぬるに不可なし然れども實際其夫もしよく鋤を用ひ其身針を使ふに巧なりとあらバ兩人勞を分ちて其業を二つにするに若かず之を是れ男女得る所の力を異にすと云ふあり然れども之が爲に一方は一方に優れるにあらず双方各相違して而も權を均うするものあり例へば世に傳道師たるものあれバ又鍛冶屋あり僧侶となるものあれバ又斬首人あり行ふ所皆な異ると雖も各擇ぶ所に隨て之を業とするが故にもと優劣を附すべからざるが如し然らバ人何の故に斯く禀質を異にして擇ぶ所同じからざるかと云ふに此は余の知らざる所にして自然が之を造りたりと云ふの外なしその職業は何如に相異るとも神の前には同樣の人類たり個々如此く相異るの下に和合ありと云べきのみ凡そ水の温若干を受て沸騰する此地に金を産じて彼地に鐵を出す此土に綿の花盛りて彼地に葡萄のはびこるが如き何れも皆法則の定りたるものありて然るのみ一を轉じて他と爲んとするも蓋し能ハず彼の女が刀銃を取に慣ず男が料理裁縫に不得手なる亦實に之に均し故に女が將相の位地を求るは猶鐵が金たらんと欲するが如しと云ふべし。此を之れ察せず世には女の女性を取去りて之に男子の禀質を附し以て男女を混同せんとするものあり必竟これ當今女が行ふ所の事によりて女を男よりも劣れりと做し則ハち之を男性にして以て其劣れる所を補ハんと欲するの誤に出づ未だ男女の身躰相異りて各長ずる所の違ふ所以を知らざる也生理上の確言は云く男は須らく男子とし女は宜しく女子として之を敎育すべし要するに共に適當の人間となすにあり

と人類最高の理想は實に之のみ」とありて次にチウトニツク人種が婦人を尊崇したる趣を語り當今英米の令孃が那の如く頭を高くして周邊の男兒に尊敬を拂はせ玉ふは必竟シバルリー時代の遺習なりと述て且つ基督教の事を論ぜらるゝやうは(以下次號)

○東京婦人矯風會　の定期會は去八日午后二時より麹町平河町の會堂に開かる參會者無慮百五十名にて會頭矢島かぢ子會を司どり島田三郎氏女子に對する意見の演説ありき右演説は社友が參り合せて例の速記文にて書留めたれバ次號に掲載すべし

○婦人洋服裁縫女學校　彌よ開校ありたるが毎學期六ケ月にして三學期(則ち一年半)を以て卒り第一期は運針方下着縫方英語の方は裁縫に用ゆる諸品の名第二期は毛織物上着縫方にして英語は簡單なる會話第三期は絹類上着縫方及び裁方にして英語は日用會話を教授するよし毎週の教授時間は裁縫の方四十時間英語の方二時間なりと云ふ

○日本音樂會　は去月二十日鹿鳴館に於て相談會を開きしが愈よ〳〵同會の規約を確定し名譽會員の推撰特別會員の撰擧等を爲したり當日集會の人〻は鍋島侯爵、戸田伯爵、井田元老院議官、辻文部次官等五六十名にして幹事には戸田氏共、岩倉具綱、伊澤修二、矢田部良吉、村岡範爲馳、ルルー、エツケルト、リブレー、四元義豐、中村裕庸、芝葛鎭、の十一氏當選せられたり依て此上尚廣く會員を募りて來る三月其第一會を開く都合ありと云ふ

○音樂傳習所　上野公園の同所にては來る十九日卒業證書授與式を執行さるゝよしに聞くが卒業生中に婦人も四五名あるよし

○婦人慈善會　は彌〻來る四月下旬第三會を開らき同會にて得たる利益は慈惠院へ施與する筈なりと此の會の擔任は青木次官なるよし

○貴婦人の懇親會　北垣京都府知事幷びに櫻井宮内書記官の催しにて去る三十日今度供奉せられし伊藤宮内大臣の夫人を下京區第廿二組下川原町なる翠紅館に招待して懇親會を開らかれたり因て建野大坂府知事内海兵庫縣知事中井滋賀縣知事の夫人方にも參席せられたるが何れも洋服を着せられしはいと目覺しかりしとぞ又大臣の夫人は皇后宮よりの服制　思召書に對し懇〻演説在せられたるやに聞けりと内外新報に見ゆ

○大坂婦人奬業會　兼て本誌にも掲載せし大坂婦人奬業會は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

都合により東區南久寶寺町二丁目へ移轉し去る一日開業式を行ひ朝野紳士の夫人、新聞記者、各基督教會の婦人等來會し無慮四百餘名午後二時半より始め式の前後に奏樂あり後ち茶菓の饗應ありたるよし來會者の割りに家屋は少しく狹かりし由にて餘程の雜沓なりしと

○志をりの友垣　山形縣にて尋常師範中學兩校の教員諸氏が發起せる男女交際會しをりの友垣は近來會員も次第に增加し最上郡新庄へ支部を設るの運に至りと同地よりの通信に見ゆ

○婦人協會　栃木縣下宇都宮の有志婦人には今度題號の如き一會を設け婦人社會の弊風を矯正し其の交際を親密にし知見を廣くし一般に婦人の品位を高尙ならしむる目的を以て隔月に一回相會し育兒、衛生、家事、經濟、古今婦人の言行等の談話を爲し或は高尙優美なる遊樂をなし又時として博學家を聘して婦人に有益なる講義を乞ふ等なりと云ふ(右二件二月八日每日新聞)

○婦女攻藝會　宮城縣仙臺區に於て今度中等以上の婦人が相集り婦女攻藝會と云へるを設けたり此會は先づ差當り英語、編物の二科を研究するに止まり行々は洋服裁縫其他數科の工藝をも學び得らるべき仕組なる由其會場を同區東二番町なる小學校と定め會員となるべき者は十六歲以上の婦人に限り會費は一科に付き一ヶ月十錢となせり該會の教員は米國人デフホレスト夫人、ホワイト夫人、コルテス夫人の三名なりと

○藝娼妓女學校　大坂西區新町の遊廓にては藝娼妓を正業に就かしめんとの目的にて此度女學校を設立し本月二日より開校したる由なるが生徒は三百五十七名教員は十名にて其教授する科目は學科の部脩身(嘉言善行適切の事蹟又は實例に就て口授す)讀書(和文讀本卷の一より四迄)作文(假名綴りより日用文に到る)算術(加減乘除四則應用)習字(片假名平がな楷行草)容儀(坐作進退物品授受主客心得等)裁縫又修業の部は裁方、縫法、洗濯、綿繰、紡績、染物、機織、押繪、糸組物、囊物、琴三味線糸製へ、髮飾、烹炊、養蠶、メリヤス其他諸種の工業を授づくるよし時事新報に見ゆ

○廣島婦人協會　廣島縣にては師範學校職員學務課員等の發起にて婦女子の知見を廣め其品格を高うするの趣旨を以て會員時々會合し幼兒保育の方法、家政上の事柄衛生上の注意交際上の心得等すべて婦女子に適切なる趣旨を平易に談話するの目的にて廣島婦人協會なるものを組織せしに一呼して其擧に應ずる者多く知事千田君の令閨令孃並書記官平山君の令閨令孃を始め紳士紳商の細君學校の女教師等續々入會し忽ち

にして百餘名に及びたるに依り一月十六日正午より師範學校内にて第一會を開きしに會員の會するもの九十名許り其外友人親戚の參觀を請ひしもの數十名ありたり坐定るの後發起人總代として峰是三郎氏は起て發會の趣旨を述べ併せて將來の冀望を告げ次に女子師範生徒の唱歌次に大田義弼氏は小兒を虐待するの害、土肥健之助氏は物理上の實驗、平松みきに氏は婦女子の職分、長谷川直禮氏は洋服の洗濯法幷びに鷄卵貯蓄法、相川かつ氏は今の婦女子の有樣、峯是三郎氏は母親の心得等を談話し最後には幻燈を使用して廣島婦人協會の開會を祝すと云へる綠色の文字を現出し其他生理天文の圖をしめし右終りて茶菓の饗應ありて散會せり又此の會の催しを祝する爲め知事千田君の令閨より金三圓書肆早速堂より金三圓寄附せられたり右教育時論にあり

○和歌山繡箔傳習所　此頃神戸港の商人松本善七氏が數名の繡箔敎師を雇ひて同地に趣かれ各所に於て多くの工女を募集し頻りに繡箔の傳習を爲し居るが右は近來歐米各國に於て我國製造の繡箔屛風を大に賞用し此頃續々注文あるも該工の乏しきを以て將來多くの女工を養成せしめん爲めなりと云ふ

○下婢の區別を如何にせん　京都古來の習慣にて下婢の給金を齒の黑白に依て區別し黑齒のものには白齒に勝る給金を與へ又頭髮の結び方及び彼白たけながなるものを以て主從の區分を立て來りしが昨冬京都府告諭第九號の發布以來鐵漿は脫せざる可らず頭髮は束髮或は東京風に改めざる可らず折角の舊慣も之が爲めに水泡に歸せし有樣なれば守舊主義の京都人は俄然一に當惑を來して二三の豪家の如きは新たに一の方法を設け自今下婢は年齡と敎育に依て給金の高下を分ち主從の區別は束髮に挿む簪の色を以てすると決したりと云ふ

但し下婢の簪は總て黃色のものを用ゆる由中外電報に見ゆ

○改良女服地　宮城縣仙臺區產出の絹織は原絲の精なると染方の叮嚀なるより其の光澤を永存する一事に至りては他地方產出の品に一歩を讓らざれど其の織方に至りては改良せざる點ありしが今度大沼十右エ門氏の發企にて機業家染業家とも協議の上へ改良女服地を織り出し宮内省へも調進せしに特の外御思召に協ひしと覺しく諸方の貴婦人達よりも調達を命ぜられし趣きあり殖產の進歩は地方に取りて何よりの喜びと云ふべし尙ほ其の品名は宮城鹿の子、日の出織、鷹の羽博多、替り八橋、替り一樂等ありといふ

●正誤　第四十七號駿河三島女學校云々の項酒藏云々の事は取消。第四十九號京都看病婦學校の項中某婦人は某婦人會。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

前三號目錄

○四拾八號（一月廿二日發兌）

●社說、女子と音樂●論說、矢田部良吉君女子教育論講演筆記（二）コルベー孃禁酒會演說筆記●叢話、米國婦人禁酒會年會の景況●佳傳、マダムデスタルの傳（二）ゆりか物語（三）、理想佳人傳第一章シエキスピア理想コルデリアの傳●寄書、習慣を破るべし（佐々木とよ子）、妹と背鏡を讀む（石橋忍月）、婦人をして一家の外交官たらしむべし（古橋いたる）●新報、結婚の媒妁、歌御會始、婦女制服の事、備中高梁順正女學校、佛語女學校、女子職業學校、露國女子商業學校の設置、女子交際會、藝娼妓の數、景山英子の小傳其外數件●廣告、特別廣告（婦人矯風會）

○四拾九號（一月廿九日發兌）

●社說、女生徒の妻●論說、矢田部良吉君女子教育論講演筆記（三）日本婦人遊戲論第一章（我國の女子に遊戲を奬む）船越鼎太郎●叢話、女の文餘話、女の衣裳（二）●佳傳、ジョンエスレーの母、ゆりか物語（四）●寄書、妹と背鏡を讀む（石橋忍月）、女學校教員に告げ且つ女生徒に動植物學をすゝめ參らす（芙蓉軒）、じやがたら文●新報、男女相擇の說、京都府看病婦學校東京慈善醫院設立、景山英子の傳其外數件●廣告

○五拾號（二月五日發兌）

●社說、女學校の寄宿舍●論說、矢田部良吉君女子教育論講演筆記（完）。コルベー孃婦人禁酒會演說筆記（二）●叢話、馬琴小說の神髓（植村正久）。女學隨筆（女の文章、男女混合教育）●佳傳、エスレーの母（二）。ゆりか物語（五）●まどう心の歌譯（若松しづ）。婦女の地位に就ての疑を質す（石丸艶子）。じやがたら文（二）。乳母を擇む心得（藤井けい）●新報●廣告

社告

女學雜誌社

第四回點取文題

日本婦人歎

右は日本當今の婦女が蒙る數多の束縛、困苦、不自由、等を數へ成るべく實際の儘を文章につゞりたる應答を要するものにて答文は來る三月十日迄に本社に寄送あらんことを乞ふ右日限後に到着するものは乍遺憾點撿の中に收めず且つ答文は審査の上優劣を定め甲乙丙の三點を得る者には各左の賞酬を呈す

甲點者	女學雜誌	三十冊	無代呈上
乙點者	同	二十冊	同
丙點者	同	十冊	同

○通信募集の事

告白、本誌上に各女學校の景况を一々細錄仕度兼て其道の探報は致候へども何分手廻りかね候處も有之遺憾不勘候に付今度一女學校に付一人宛通信を辱ふすべき仁を相定め度存候相應の報酬としては致兼候へども當分女學雜誌を每號一部宛贈呈し尙ほ特別に有益なる報告を得たる節は格別の御報酬可致候因て各女學校中有志の御方は至急御申越被下度候尤も同校より二人以上の御申越有之候節は其中の御一人にのみ委賴可致存候也

○書籍取次の事

弊社は看客の便利を圖り凡そ女學に關係ある書籍にして東京府下の書肆中にて出版したる者は一切無料にて取次郵送可仕候依て右注文の方は書名と出版者の宿所姓名とを合せて定價の金員を送附あるへし尤も大抵は其内にて郵送賃を辨じ申すとも雖も大部の書は別に郵賃を請求可致候（但し女學外の書籍とも雖も時宜により右樣の取次可仕候也）

○書籍出版の事

弊社は女學に關係ある書籍を著作し玉ふ方々の便利を圖り適當の方法を以て其出版及發賣を擔任可致候尤も其方法は原稿一覽の上御相談仕候也

○雜誌切手の事

女學雜誌切手は女學雜誌五冊分より以上何冊分にても差出候四季折々の御遺物には至極適當の品と存じ候也

東京新橋日吉町八番地

女學雜誌社

驛遞局認可

東京産婆學校廣告

夫レ産婆ノ業タル古來婦人ノ專有職ニシテ而モ輓今婦人ノ職業中最モ高尙ノ地ニ位スルニ至レリ是レ産婆ノ巧拙ハ世間婦嬰ノ安危ニ關スルヿ尠カラザルヲ以テ學術兼備ノ者ニ非ラザレハ産婆タルヲ得ザレハナリ當校ハ櫻井郁次郎氏夙ニ當産婆專門學校ヲ設立シテ以來既ニ七年業卒ヘ内務大臣ノ免状ヲ得ル者已ニ數十名且ツ近來生徒ノ數益々增加スルヲ以テ茲ニ校規ヲ擴張シ廣ク生徒ヲ募集シ愈々本學ノ振興ヲ圖ラントス

本校ハ固ヨリ入學定期ヲ設ケス何時ニテモ入學セシムト雖本月ヨリ産婆各論ヲ講始スルニヨリ望ノ者ハ至急入學アルベシ

本校舊幹事尾沖米子舊臘米國ヘ留學致候ニ付今般岩田文吉氏ヲ幹事兼教員ニ囑任セリ此段併テ廣告致候也

二月

淺草區福富町三番地

東京産婆學校

米國ケレー氏著〇嚴本善治君譯

女の未來

定價三十錢（新版）

近頃婦人論盛んなるに付ては女は未來何如やうに成行べきや甚だ掛念すべきことあり由て此書は廣く各國の事情を探り未開時代の女の有樣より漸く文明諸國の現狀に移りて遂に今後女の位置何如に進歩すべきやを判斷せしものなり

東京神田雉子町 **輿論社**

（大取次） 女學雜誌社

船越鼎太郎君著

産婦小兒

攝生法

（新著） 一册十八錢郵送稅四錢

右は産婦小兒の養生法を平易なる文章にて何方にも分り易き樣認めたる者なれども所論は一々學理に照して實際を鑑み專ら當今の養生法其道を盡さゞるを敎へたり故に月經の心得より、妊娠したるか否やを知ると、出産の日期を知る法、妊娠中の養生法、産後の養生法、赤子のとりあつかひ乳を飮まする間の養生法、母の乳を用ひずして子供を育つる法等こと〴〵く信切に敎へたり世の母たらん人は何卒一册を座右に置きて最愛の生子を誤りて取扱ひ玉ふやうのことなからんを希ふ

（出版兼發賣） 新橋日吉町八番地 女學雜誌社

發兌

二月。五日 十二日 十九日 廿六日
三月。五日 十二日 十九日 廿六日
四月。二日 九日 十六日 廿三日 三十日
五月。七日 十四日 廿一日 廿八日

定價

一册。五錢 郵稅。一錢（但府內無郵稅）
十册。四十八錢郵稅。十錢（同前）
半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記録を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲ぐるに右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む

一行一回（廿七字詰）前金拾錢
同三回以上 一割引
同六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町融々堂〇東京芝西久保櫻川町萬春堂〇東京神田區雉子町開々社支店〇同神田區佐柄木町東海堂〇同日本橋區新橋町貝明堂〇同京橋區木挽町壹丁目萬字堂〇同本郷區元富士町盛春堂〇同本郷區春木町二丁目解明堂〇東京本郷四丁目文壽堂〇横濱住吉町角田屋貞〇京都四條通小橋へ入澤集光堂〇同三條通東洞院西へ入クリスチアンポード〇大坂備後町四丁目岡島支店〇仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部〇宮城縣仙臺大町木村文助〇尾張國名古屋本町石版舍

●賣捌新加● 出雲國松江新町盛進堂〇廣島縣大手町一丁目早速社〇長崎酒屋町虎興號〇江州彦根西内大工町新々堂〇相州小田原緑町石壽堂〇上州高崎田町煥平堂〇勢州松坂家里初枝

發行所

東京京橋區日吉町八番地

本局 **女學雜誌社**

持主兼編輯 嚴本善治

印刷 森田豐

WOMEN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen.* By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8 HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tōkyō.

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

右は産婦小兒の養生法を平易なる文章にて何方にも分り易き様認めたる者なれども所論は一々學理に照して實際を鑑み專ら當今の養生法其道を盡さゞるとを敎へたり故に月經の心得より、姙娠したるか否やを知ると、出產の日期を知る法、姙娠中の養生法、產後の養生法、赤子のとりあつかひ乳を飲まする間の養生法、母の乳を用ひずして子供を育つる法等こと〴〵く信切に敎へたり世の母たらん人は何卒一冊を座右に置きて最愛の生子を誤りて取扱ひ玉ふやうのとなからんを希ふ

（出版兼發賣）新橋日吉町八番地　女學雜誌社

●賣捌新加●出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彥根西内大工町新々堂○相州小田原綠町石壽堂○上州高崎田町煥平堂○勢州松坂家里初枝

發行所　本局　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

持主兼編輯　巖本善治

印刷　森田豐

驛遞局認可

東京產婆學校廣告

夫レ產婆ノ業タル古來婦人ノ專有職ニシテ而モ輓今婦人ノ職業中最モ高尚ノ地ニ位スルニ至レリ是レ產婆ノ巧拙ハ世間婦嬰ノ安危ニ關スル事尠カラザルヲ以テ學術兼備ノ者ニ非ラザレハ產婆タルヲ得ザレハナリ當校ハ櫻井郁次郎氏夙ニ當產婆專門學校ヲ設立シテ以來既ニ七年業卒ヘ內務大臣ノ免狀ヲ得ル者已ニ數十名且ツ近來生徒ノ數益々增加スルヲ以テ玆ニ校則ヲ擴張シ廣ク生徒ヲ募集シ愈々本學ノ振興ヲ圖ラントス本校ハ固ヨリ入學定期ヲ設ケス何時ニテモ入學セシムト雖本月ヨリ產婆各論ヲ講始スルニヨリ望ノ者ハ至急入學アルベシ本校舊幹事尾沖米子舊臘米國ヘ留學致候ニ付今般岩田文吉氏ヲ幹事兼教員ニ囑任セリ此段併テ廣告致候也

二月

淺草區福富町三番地　**東京產婆學校**

米國ケレー氏著○巖本善治君譯

女の未來　定價三十錢（新版）

近頃婦人論盛んなるに付ては女は未來何如やうに成行べきや甚だ掛念すべきことあり由て此書は廣く各國の事情を探り未開時代の女の有樣より漸く文明諸國の現狀に移りて遂に今後女の位置何如に進步すべきやを判斷せしものなり

東京神田雉子町　**興論社**（大取次）　女學雜誌社

船越鼎太郎君著

產婦小兒 攝生法（新著）　一冊十八錢郵送稅四錢

右は產婦小兒の養生法を平易なる文章にて何方にも分り易き樣認めたる者なれども所論は一々學理に照して實際を鑑み專ら當今の養生法其道を盡さゞることを教へたり故に月經の心得より、妊娠したるか否やを知ること、出產の日期を知る法、妊娠中の養生法、產後の養生法、赤子のとりあつかひ乳を飲ますする間の養生法、母の乳を用ひずして子供を育つる法等こと〴〵く信切に教へたり世の母たらん人は何卒一冊を座右に置きて最愛の生子を誤りて取扱ひ玉ふやうのことなからんを希ふ

（出版兼發賣）　新橋日吉町八番地　女學雜誌社

發兌

月					
二月。	五日	十二日	十九日	廿六日	
三月。	五日	十二日	十九日	廿六日	
四月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
五月。	七日	十四日	廿一日	廿八日	

定價

一冊。五錢　郵稅。一錢（但府內無郵稅）
十冊。四十八錢郵稅。十錢（同前）

半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるの外は一切無料とす但し一紙面半頁分の廣告に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增のる割合と定む

一行　一回　前金拾錢
同　三回以上に　一割引
同　六回以上に　二割引
（廿七字詰）

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMEN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 sen. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8 HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tōkyō.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町開々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新銀町貝明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○東京本郷四丁目文壽堂○橫濱伴吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンポード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍

●賣捌新加●出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彥根西內大工町新々堂○相州小田原綠町石壽堂○上州高崎田町煥平堂○勢州松坂家里初枝

發行所

東京京橋區日吉町八番地
本局　**女學雜誌社**
持主兼編輯　巖本善治
印刷　森田豐